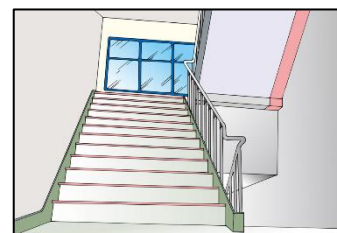




■踊り場 (landing) —3 学期終業式にて—

今日で3学期、令和5年度が終わります。皆さんにとって、令和5年度はどんな1年間だったでしょうか？1年生の皆さんは初めての高校生活を迎えた年、2年生の皆さんは高校生活2年目が終了となります。昨年4月、新鮮な気持ちで思い描いた目標への取組は、



どの程度達成できましたか？1学期の始業式では皆さんに「新年度のこの機会に自分自身に少し『向き合って』みませんか。『その先に』は、きっと新しい世界、可能性が開けていると思います。」と伝えました。部活動や学校行事、友達との会話等の楽しい時だけではなく、できれば避けて通りたいことや場面、そして何より自分自身に『向き合って』過ごすことができましたか？年度末を迎え、改めて思い返してみてください。

先日、階段を上りながらこんなことを考えました。階段の途中にある、この踊り場がなかったらもっと早く上れるんじゃないかな？と。踊り場とは、階段の途中に設けられたやや広くて平らな足休め場所のことです。建築基準法施行令では、例えば高校に設置されている階段については高さ3mをこえるものについては3m以内ごとに踏幅1.4m以上の踊り場を設置するよう細かく定められています。そもそもなぜ階段に踊り場があるのかというと、方向転換、階下への転落防止、昇降時の小休止などのためといわれています。

なぜ階段に踊り場があるのかと考えるよりも、階段に踊り場がなかったらどうなるのか？と考えるとイメージしやすいかもしれませんね。休みなく上り続けていると一休みできませんし、目標地点への到達度もわかりません。あるいは、振り返って下を見ると怖くなってしまうこともあるでしょう。一方、踊り場があると、そこで一旦足を止めこれまで自分が一段一段上ってきた過程を振り返りながら態勢を整え、目標地点へ向けた新たな一步を踏み出すことができます。皆さんはそれぞれ1年をかけて上の階へと続く階段を一段一段上ってきました。この春休みを“階段の踊り場”ととらえ、あの時のこと、その時のことを自分なりに振り返り、一つ上のステージを目指すための修正期間と考えてください。

「踊り場」は英語では「landing」（着陸）と表現します。皆さんそれぞれが設定した目標地点に landing = 着陸できるよう、自分自身に『向き合い』ながら充実した春休みを過ごしてください。新年度の始業式で、やる気に満ち溢れた皆さんの眼差しに出会えることを楽しみにしています。

* 「踊り場」の由来

1883年に建設された「鹿鳴館」で行われた舞踏会の際に、ドレスを着た女性たちが階段を下りながら、平らな場所で止まってポーズをした時、ドレスのふくらんだ部分が揺れる姿が踊っているように見えたからという説もあります。（毎日小学生新聞 HP より引用）